



7本の幹からなる七福神桜



幹周り4mを超える福田桜



山道を笑顔で登る参加者

春の里山で桜を堪能

川内田地区でかくれ山桜の観賞会

福が来ると言われる2本の山桜の観賞会が4月8日、川内田地区で行われ、約200人が巨大な桜の木を目

2本の桜まで往復約7kmの山道を歩き、澄んだ空気を吸いながら、自然を満喫。『桜を見るだけでなく、一緒に森林浴もできる。とても気持ちがいい』と春の里山を堪能していました。

この観賞会は、川内田住民による「川内田里づくり委員会」が里山の魅力を再発見してもらおうと企画したもので、樹齢数百年と推定され幹周り4mを超える「福田桜」、7本の幹からなる「七福神桜」の2本を観賞しました。

桜を観賞し下山した後、迎えてくれたのは地元住民手作りの「さくら汁」。馬肉が入った味噌仕立ての汁で、何杯もおかわりを貰う人もいました。出発地点にも桜が咲いていて参加者は昼食を食べながら、思い思いに花見を楽しんでいました。

参加者たちは、川内田地区ゲートボール場を出発し、

桜を堪能して下山した後、



心のこもった料理でもてなす地元の皆さん

お元気な100歳2人を表彰

永野マサエさん、本田ツタエさん



家族から祝福される永野マサエさん(中央)

り、新聞を読むのが楽しみ。眼鏡を使わず字をスラスラ読んだり、丸暗記している「教育勅語」を披露したりと、「得意技」を見せました。

町長から表彰を受けると本田さんは、「益城町で一番の長寿になつてみたい」と話していました。

お2人とも100歳の高齢を感じさせないお元気ぶりで、「これからも長生き」という共通する目標が明確にありました。

お2人とも、これからもお元気でいてください。

3月26日に永野マサエさん(北向)、4月18日に本田ツタエさん(安永1町内)が、めでたく100歳の誕生日を迎えられ、町から表彰状と敬老祝い金が贈られました。

永野さんは毎日食事をたくさん食べ、洗濯物などの家事や趣味の花植えなどをしていきます。副町長から表彰を受け、「私の夫は102歳まで生きたから、夫よりも長生きしてみたい」と前向きな目標を話していました。

本田ツタエさんは大の野球ファンで野球中継を見た



いろいろな特技を披露した本田ツタエさん